

春



春一番の堰掃除



田んぼにメダカを放流



メダカ保全池まわりを植栽

夏



メダカを保全池へ引越し

秋



「めだかの里米」稲刈り体験

地域活動 ごよみ

冬



メダカ保全池の冬支度



収穫した「めだかの里米」を給食に



揚水機場で地域に棲む魚を学習

家根合地域のこれから

余目第一小学校・PTA

庄内町・県

地域の活性化

最上川土地改良区

NPO家根合生態系保全センター

ふれあいホーム家根合[学童保育]

J A庄内たがわ



「子どもたちは、自分たちの先輩が地域と共に創り上げたこの活動を、大きな感動をもって学習しています。」

庄内町立余目第一小学校

阿部真一校長

地域が受け止めた

子どもたちの想い

家根合地区メダカ保全活動



「めだかの里米」の田植え はだして泥の感触を確かめながらの手植え作業

庄内町家根合(かねあい)地区は庄内平野のほぼ中央、最上川末流に位置し、長年水不足に悩まされていた。限られた水を無駄なく活用するため、平成11年に水路を管路化するほ場整備事業に着手した。しかし、工事によって田んぼにいるメダカがいなくなってしまうのでは…と心配した余目第一小学校の児童達が、地域住民を巻き込んで「メダカSOS救出作戦」を開始した。この児童達の活動をきっかけに、地域の環境保全への気運が高まり、NPO家根合生態系保全活動センターが設立された。以降、地域が一つになった環境保全活動が15年にわたり続いている。

メダカをシンボルとした活動は、春の田植え体験に始まり、田んぼへのメダカの放流、観察。その後、田んぼで増えたメダカを中干し前に保全池へ引越させ、秋には、稲刈り、杭かけを行っている。そのほか、家根合揚水機場の調整池で、水を抜く時期に地域に棲む魚を子どもと大人が一緒になって泥にまみれて捕まえている。

子どもたちのいきいきとした目の輝きが、大人たちの活動への励み、活力となっている。



苗を真っ直ぐ田植えするため、形付け作業を行う児童達

